

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉県2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	早稲田大学所沢キャンパス 研究員	階数	地上5F
建設地	所沢市三ヶ島5丁目1280-1、1280-3	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域・防火指定無し	平均居住人員	108 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2019年2月1日
敷地面積	2,155 m ²	作成者	株式会社 山下設計
建築面積	868 m ²	確認日	2019年2月1日
延床面積	3,388 m ²	確認者	株式会社 山下設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 市街化調整区域における寄宿舎の計画で、周辺環境への調和に配慮した計画としています。建物のボリュームを極力抑えるため、階高を最小の高さとし、外構は自然法面勾配を基本としています。		その他 0
Q1 室内環境 ・共用部における外気取り込み ・外部環境への影響を軽減し、消費エネルギー削減に寄与する有孔折板スクリーンによる外観	Q2 サービス性能 ・インテリアパースによる内装計画の事前検証の実施。 ・維持管理に配慮した材料の選定。	Q3 室外環境(敷地内) ・自生種を主とした緑量のある豊かな植栽計画を実施。 ・階高を極力抑え、建物ボリュームをコンパクトに納めることにより、日影の影響を最小限にした。
LR1 エネルギー 建物としてできる断熱性能を確保し、機器・器具の選定においても高効率の製品の採用に配慮した。	LR2 資源・マテリアル ・リサイクル資材の採用。 ・有害物質を含まない建材の採用。	LR3 敷地外環境 ・敷地内の積極的な緑化による地表面熱負荷の低減を図る。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質)、**L: Load** (建築物の環境負荷)、**LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性)、**BEE: Built Environment Efficiency** (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
 早稲田大学所沢キャンパス 研究員宿舎等(仮称)新築工事

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C
 評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
0 建築物の環境品質									3.2
Q1 室内環境					0.40		-		3.4
1 音環境				4.0	0.15	3.8	1.00		3.8
1.1	室内騒音レベル	遮音性能の高いサッシを採用することで室内騒音レベルを低減		3.0	0.50	4.0	0.50		
1.2	遮音			5.0	0.50	3.6	0.50		
1	開口部遮音性能	T-2の遮音性能のサッシを採用		5.0	1.00	5.0	0.30		
2	界壁遮音性能			3.0	-	3.0	0.30		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20		
1.3	吸音			3.0	-	3.0	-		
2 温熱環境				2.6	0.35	3.0	1.00		2.8
2.1	室温制御			3.0	0.50	3.0	0.50		
1	室温			3.0	0.63	3.0	0.63		
2	外皮性能			3.0	0.38	3.0	0.38		
3	ゾーン別制御性			3.0	-		-		
2.2	湿度制御			1.0	0.20	3.0	0.20		
2.3	空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				3.0	0.25	3.3	1.00		3.1
3.1	昼光利用			3.0	0.30	3.0	0.30		
1	昼光率			3.0	0.60	3.0	0.50		
2	方位別開口				-	3.0	0.30		
3	昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2	グレア対策			3.0	0.30	4.0	0.30		
1	昼光制御	カーテン(ダブル)及び、バルコニー(庇)部に有孔スクリーンを設置		3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3	照度			3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4	照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気環境				4.2	0.25	4.3	1.00		4.2
4.1	発生源対策			5.0	0.60	5.0	0.63		
1	化学汚染物質	建築建材はすべてF		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2	換気			3.0	0.40	3.3	0.38		
1	換気量	十分な余裕のある計画		3.0	0.50	4.0	0.33		
2	自然換気性能			3.0	-	3.0	0.33		
3	取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3	運用管理				-		-		
1	CO ₂ の監視			3.0	-		-		
2	喫煙の制御			3.0	-		-		
Q2 サービス性能					0.30		-		3.3
1 機能性				3.9	0.40	4.0	1.00		3.9
1.1	機能性・使いやすさ			3.0	0.40	4.0	0.60		
1	広さ・収納性			3.0	-	3.0	-		
2	高度情報通信設備対応	100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能。		1.0	-	4.0	1.00		
3	バリアフリー計画			3.0	1.00		-		
1.2	心理性・快適性			5.0	0.30	4.0	0.40		
1	広さ感・景観			3.0	-	3.0	0.50		
2	リフレッシュスペース			3.0	-		-		
3	内装計画	コンセプトに基づき、検証を重ねた計画		5.0	1.00	5.0	0.50		
1.3	維持管理			4.0	0.30		-		
1	維持管理に配慮した設計	内外装仕上のメンテナンス性や耐久性に配慮		5.0	0.50		-		
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30		-		2.9
2.1	耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		-		
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20		-		
2.2	部品・部材の耐用年数			3.1	0.30		-		
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20		-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.20		-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10		-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	耐久性のあるダクト素材の採用		4.0	0.10		-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	配管の素材に配慮		5.0	0.20		-		
6	主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.20		-		
2.4	信頼性			2.6	0.20		-		
1	空調・換気設備			3.0	0.20		-		
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20		-		
3	電気設備			1.0	0.20		-		
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20		-		
5	通信・情報設備			3.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.2	0.30	2.7	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり					2.4	0.50	
1	階高のゆとり		3.0	-	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		2.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	スケルトン・インフィルの明確化、主配線ルートは露出配管	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	スケルトン・インフィルの明確化、主配線ルートは露出配管	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.97	3.3	0.50	-	-	3.3
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価							
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		路盤材(再生クラッシュラン)	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		スケルトン・インフィルの明確化、主配線ルートは露出配管	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		LED照明の採用	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	早稲田大学所沢キャンパス 研究員宿舎等(仮称)新築工事	BEE	1.1	BEEランク
------	-----------------------------	-----	-----	--------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO ₂ の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.1	+	3.0	=	6.1	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減		スコア平均	3.1
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.1
< 配慮した内容を記述 >			
・LED照明の採用			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
< 配慮した内容を記述 >			
・外構緑化指数が20%以上50%未満			
・自生種や敷地形状に配慮した緑化計画			
・夏季における暑熱環境緩和のために、緑地を積極的に確保し、バルコニー張り出し部を庇空間としている。			
・地表面は砂利敷やコンクリート平板など、アスファルト舗装に比べ照り返しの少ない材料を選定			

: 入力欄